

今季のマダコ，水温高く来遊遅い

1. マダコの生態と茨城県における漁獲量

マダコは春から初夏に外房周辺で生まれ、北上暖水によって、仙台湾周辺までの沿岸各地に分散します(図1)。茨城県沿岸に分散した「地ダコ」に加え、秋から冬にかけて仙台湾周辺から産卵のために外房に南下する「渡りダコ」を対象に、マダコ漁が営まれています。通常、年末から年明け2月頃まで、茨城沖では「たこつぼ漁」や「樽流し漁」などのマダコ漁のシーズンとなります。マダコ漁の好・不漁は、「渡りダコ」の来遊状況に強く影響を受けるため、茨城県の過去20年のマダコ漁獲量は、13~243トンと年による変動が大きくなっています。

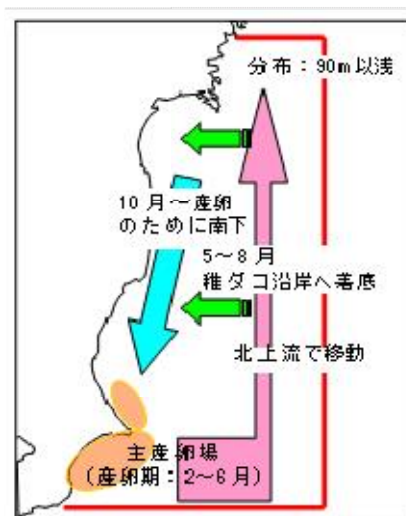


図1 常磐海域のマダコの生態

2. 昨年漁期の状況

茨城沖のマダコ漁は12~2月が主漁期で、年間漁獲量の8~9割ほどをこの時期に漁獲します。昨年(H29)主漁期の漁獲量は175トンで、過去20年の中では8番目と平常並みでした(図2)。宮城県や福島県(試験操業)では、記録的な好漁となりましたが、茨城県沿岸では主漁法のたこつぼ漁場より沖側を南下したため、平常並みの漁獲量となりました。一方、沖側で操業する底曳網漁業では平常より多く漁獲されました。

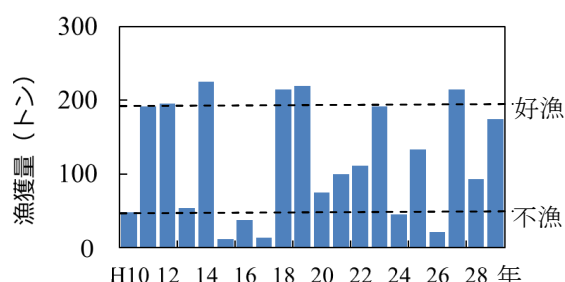


図2 マダコの漁獲量(12~2月)

3. 今季のマダコ漁の予測

「渡りダコ」は沿岸水温(那珂湊定地水温)が15℃前後になると水揚げが始まり、10~12℃になると水揚量が増加する傾向があります。今年の沿岸水温は12月に入ってから17℃前後で推移し、沖合でも水温の高い状況が続いており(図3)、たこつぼ漁の漁獲量は現在低調に推移しています。宮城県や福島県からの情報では、両県のマダコ漁獲量は平常並みとなっており、「渡りダコ」の来遊量はそれほど多くはないと思われます。これらのことから、今季のマダコ来遊が本格化するのは早くとも年末、来遊コースにもよりますが漁獲量は平常並みと予測します。

(定着性資源部)

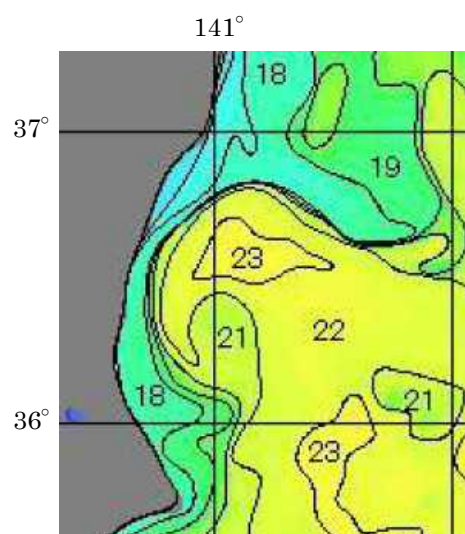


図3 海況の概要(11月28日~12月4日)
(人工衛星速報30-No.36より抜粋)

【次回予告】 H30.12.18 発行の水産の窓は、「12月の海況と今後の予測」を予定しています